

修士課程科目(R02)		授業形態	講義	先端バイオ：選択必修2単位 高度メディカル：選択必修2単位
科目名	感染と生体防御		ナンバリング コード	先端バイオ：GMDMFB2001 高度メディカル：GMDMAM2003
テーマ	微生物に対する免疫機構を学ぶ			
開講時期	2年前期 金曜日6限 (午後6:00-7:30)			
授業場所	共通教育棟 503 講義室			
担当教員	西 順一郎			
G I O	1) 病原微生物の生物学的特性とその感染防止策を理解する。 2) 病原体に対する生体防御機構を理解する。			
S B O	1) ウイルス、細菌、真菌等の生物学的特徴を説明できる。 2) 感染と発病の違いを説明できる。 3) 生体防御機構(免疫)を担当する臓器、組織、細胞について説明できる。 4) 自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫の違いを説明できる。 5) 個々の微生物の伝播様式と感染症の病態について説明できる。 6) ワクチンについて説明できる。			
授 業 内 容 (90分 × 15回)				担 当 者
1	微生物学の歴史、生物学的位置付けと分類			西 順一郎
2	微生物の形態、構造、病原因子			大岡 唯祐
3	感染と発病			西 順一郎
4	自然免疫と獲得免疫			原 博満
5	細胞性免疫と感染防御			久保田龍二
6	液性免疫と感染防御			原 博満
7	細菌の免疫回避機構			大岡 唯祐
8	ウイルスの免疫回避機構			西 順一郎
9	ウイルス感染症に対する化学療法			馬場 昌範
10	真菌・抗酸菌に対する免疫応答			原 博満
11	腸内細菌と粘膜免疫			原 博満
12	細菌が生体バリアを超えるメカニズム			西 順一郎
13	インフルエンザ			西 順一郎
14	ワクチン基礎			西 順一郎
15	ワクチン各論			西 順一郎
教科書・参考書	特に指定せず、教材は教員が準備する。			
評価基準 および方法	積極的な授業への参加…100%。勤務の関係上参加できない学生には教材をもとにレポート等で評価する。			
アクティブ・ ラーニング	方法：グループワーク 回数：15回中2回以上			
時間外対応	オフィスアワー	とくに定めないが、相談があれば随時応じる		
	メール・HP	nishil@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp		
	授業後	いつでも質問や相談に対応する		
その他	勤務の関係で出席できない学生は事前に連絡すること。都合により講義時間を次のとおり変更します。5/1(金)→8/18(火)、5/15(金)→5/14(木)、6/19(金)→6/18(木)			